

2023 な な さ と

㊟るほど ㊟っとく ㊟あ ㊟りくむぞ！やって伸びる七里っ子！



R5. 10. 13 (金)
第39号
文責：校長 川添
七里小学校

いつもの年と違って大変だったけど、たのしかったよ！

4・5・6年生、ズボズボはまった稲刈り体験！



4・5・6年生の子どもたちが佐竹さんのご指導のもと田植え体験させていただいた苗が、約4か月間の時を経て、黄金色の見事な稲穂を付けました。そこで、10月11日（水）の午後、再び佐竹さんにご指導いただき、稲刈り体験を行いました。

6年生にとっては3回目の稲刈り体験でしたから、鎌の扱い方や稲の刈り方等はよく覚えていましたが、今回は田んぼのコンディションが例年と違っていました。田んぼの真ん中の辺りに近づくと、土が湿っていて足がズボズボとのめり込んでしまう状態でした。（佐竹さんが、体験用に別の田んぼも用意してくださっていましたが、やっぱり自分たちが植えた稲を刈り取ることにしました。）

刈り進んで行くうちに、あちこちから「長靴がぬけて、土の中にはまった」「足が抜けん～」という悲鳴が上がりました。その声を聞くと、近くにいた子どもたちが、手を取って引っ張ってあげたり、埋まった靴を一緒



に掘り出してあげたり・・・自然に助け合いが生まれていました。ズボズボ足を取られながらも、1時間程度で無事に稲刈り終了！ 田植えの時に負けなぐらいに泥だらけになった姿を

市川先生が言っていたように切り株の上を歩くと、いいことが分かった！3年目で初めて知って勉強になったけど、稲刈りも今年で最後や～



見合って、大笑いする声が飛び交っていました。（洗濯や靴洗いが大変だったことと思います。申し訳ありませんでした・・・）

最後に6年生の葵さんがみんなを代表して、「今までと違って、足がはまったりして大変だったけれど、それも含めて**思い出に残る楽しい稲刈り**になりました。田植えから今までの間のお世話や今日の稲刈りのご指導など本当にありがとうございました。」と佐竹さんにお礼の言葉を伝えました。佐竹さんからは、「大変な稲刈りだったと思うけれど、それを「楽しかった」と言ってくれてうれしかったです。**これから先、予想していた通りにはうまくいかないことに出会うこともあると思うけれど、そんな時こそ笑顔でピンチを楽しむことができればステキだね。**」という言葉いただきました。



「体験したことは、いつかどこかで役立つかもしれん！」

「将来、『そう言えば小学生の時の稲刈り体験で、**足が泥にはまった時、つま先よりもかかとから抜いた方が楽**だったなあ。』と、今日の体験が役立つことがあるかもしれんで！**いろんなことを体験しておくって、大切よ**」という佐竹さんの言葉にうなずく子どもたち！今回も学びの多い米作り体験になりました。

震度7の揺れを体験！



周りの様子も見ながら身を守る「カエルのポーズ」や「ライオンのポーズ」を習ったよ！

ポーズの説明を受けた後、4名ずつ起震車に乗り込みました。震度7の揺れの中で習ったポーズをとること、そして揺れに耐えることは、想像していたよりも大変だったようです。今回の体験のようにつかまる物や頭を守る物が近くにいる時もあるはず。今後も、いろいろな状況での訓練を積んでいきたいと思います。



昨日の午後、防災学習の一環として「起震車体験」を行いました。

自宅に居た時、大地震の揺れからどうやって自分の命を守るのか、防災のために自分たちにできることはどんなことがあるのかなど、それぞれの学年が真剣に学び合いました。「今日学んだことを家族にも伝えたい！」と考えた子どもたちも多かったようです。